

神楽を活かした地域づくり、高千穂町を視察して

上毛町の3つの神楽(友枝神楽講、唐原神楽講、成恒神楽講)が豊前神楽として国重要無形民俗文化財指定になり、今後神楽を活かした地域づくり、町づくりの視点から全国屈指の神楽を活かした町である高千穂町を視察しました。

■高千穂町

高千穂町は、大正9年(1920年)に町政を施行して97年を迎える。

人口:12602人(男性 6037人 女性 6565人)

面積:233km²

農用地:22km² 9.5%

山林:193km² 83%



高千穂町の概要

「高千穂の夜神楽」は天照大神をはじめ、日本の神話や伝説の中に登場する神々が総出演し、夜を徹して三十三番の神楽を奉納する神楽で、昭和53(1978)年に国の重要無形民俗文化財に指定されている。高千穂神社の神殿では、毎晩神楽講が交代で観光神楽を上演している。夜神楽は期間限定となるため、三十三番の神楽の中から代表的な4番「手力雄の舞」「鉦女の舞」「戸取の舞」「御神体の舞」を見ることができる。我々が視察した日は平日にも拘わらず100名を超える観光客が来場していた。耳をすませば、聞きなれない言葉が飛び交う。聞くと半数近くがアジアを中心とした外国人観光客という。

町役場の説明では、住むには苦勞が多いが交流人口は秀でており、年間116万人、約42億の観光収入を得ている。その中心となるのが、自然資産の高千穂峡、文化資産である高千穂神社、高千穂神楽であり、そのキーワードは町民参加による「協働」と「共助」であり、「地域の絆」と思われる。

平成17年に台風の影響で廃線になった旧高千穂鉄道の線路を、あまてらす鉄道オリジナルのスーパーカートで雄大な景色を楽しむことができ、旧高千穂鉄道で使用していたディーゼルカー TR-202の運転体験予約ができる。最近では、初代地方創生大臣・石破茂さんがご本人のたつての希望で人生初の運転体験に挑戦したことで知られている。また、平成19年10月、鳥取県で開催された和牛のオリンピック「第9回全国和牛能力共進会」において見事内閣総理大臣賞(高千穂牛)を受賞。念願であった日本一の称号を手に入れている。

この山間地域で行われている神楽を中心の自然資産を活かした観光化は、住民参加型で行われており、当町にも似かよった部分も多く大変参考となった。



高千穂神楽



天安河原



天岩戸神社

委員長視察研修 (宮崎県)

三田 敏和

7月26日(水)、27日(木)に委員長研修(議長、副議長、議会運営委員長、予算決算常任委員長、総務産業建設常任委員長、文教厚生常任委員長と事務局)として、宮崎方面(日向市、高千穂町)の視察を行った。

林業の新しい取り組みについて

上毛町は面積62.4km²に対して、森林が62%を占めておりその内、人工林が約70%の27.02km²に上ります。国産材が低迷する中、林業従事者も高齢化しています。山に活力を取り戻し、循環型形成を維持する上にも新たな取り組みが必要です。今回、木材需要の研修を兼ねて、中国木材(株)日向工場を視察した。



日向工場の概要



■中国木材株式会社 日向工場

本社:広島県呉市
設立:1955年1月
売上:923億円(2016年6月期)
従業員数:2,000名



木材加工棟



木材集積場



バイオマス発電設備

日向工場は、製材棟(チップ加工含む)、集成材棟(杉を4枚貼り合せた板柱)、倉庫、天然乾燥場、加工棟、バイオマス発電棟(18,000kW、一般家庭3万~4万戸分)、メガソーラ発電を工場屋根に設置(2.3MW)、合わせて13万坪の敷地を有する。

将来、隣地に専用バースを設け、製品出荷に対応する。日本の住宅着工数は今後減っていくので輸出を少しずつ始めている。生産の約半数は集成材で、原木の歩留まりは60%、他企業では40%は廃材となるが、此处ではチップ化しバイオマス発電の燃料となる。併せて太陽光発電など自然エネルギーを活用し、環境に配慮した事業経営をしている。また、地元企業との共存共生を図るべき、材料は九州各県より購入、製品は地元以外に出荷している。

規模の大小はあるものの当町に参考になることも多く、今後の林業政策の参考となった。